画像診断レポート・病理診断レポート見落とし防止対策システムの実現状況についてのアンケート調査結果

					A社			B社			C社			D社			E社			F社			G社			H社			I社			J社			K社			平均値		
		システムの機能仕様項目	実装の必要性	期待する時期	通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現	通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現	通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現	通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現	通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現	通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現	通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現	通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現	通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現	通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現	通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現	通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現
1.	画像検査オーダ																																						
	1.1.	画像検査オーダ画面で、緊急所見があった場合に通知すべき医師の、連絡先(PHS番号、内線番号等)を設定することができること。職員マスタ等で管理したオーダ医の連絡先が既定表示されること。	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	2							0.00	0.22	0.22
	1.2.	画像検査オーダ画面で、画像診断レポート作成通知や、重要所見通知を行う医師を指定することができること。医師の指定がない場合、これらの通知はオーダ医に行われること。	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2							0.00	0.00	0.00
	1.3.	画像診断レポートの作成通知の要否をユーザが指定できること。オーダ起動時に”要”、”否”のいずれかを既定表示できること。既定表示の変更の可否を、設定できること。上記は診療科単位で設定ができること。	3	2	2	2	2	0	0	0	0	0	0	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	2							0.44	0.44	0.44
2.	病理検査オーダ																																						
	2.1.	病理検査オーダ画面で、重要所見があった場合に通知すべき医師の、連絡先(PHS番号、内線番号等)を設定することができること。職員マスタ等で管理したオーダ医の連絡先が既定表示されること。	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	2							0.00	0.22	0.44
	2.2.	病理検査オーダ画面で、病理診断レポート作成通知や、重要所見通知を行う医師を指定することができること。医師の指定がない場合、これらの通知はオーダ医に行われること。	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2							0.00	0.22	0.44
	2.3.	病理診断レポートの作成通知の要否が指定できること。オーダ起動時に”要”、”否”のいずれかを既定表示できること。既定表示の変更の可否を、設定できること。上記は診療科単位で設定ができること。	4	3	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	2							0.11	0.11	0.11
3.	画像診断レポート作成システム																																						
	3.1.	画像検査オーダで入力されたオーダ医等の連絡先(PHS番号、内線番号等)が表示されること。	2	2	2	2	2	0	0	0													0	0	0							0	0	2	2	2	2	0.80	0.80	0.80
	3.2.	画像診断レポートは、所見フィールド、診断フィールドが分離した構造とし、レポート作成画面とレポート表示画面で表示順を変更することができること。	3	2	0	2	2	0	0	0													0	0	0							2	2	2	2	2	2	0.40	0.80	0.80
	3.3.	画像に重要所見があった場合、文字色、文字サイズを変更してレポートを作成できること。	2	1	0	0	0	0	0	0													0	0	0							2	2	2	2	2	2	0.40	0.40	0.40
	3.4.	画像診断専門医が重要所見に対し、簡単な操作でフラグを立てることができること。	4	3	2	2	2	2	2	2													0	0	0							2	2	2	2	2	2	1.20	1.20	1.20
	3.5.	レポート確定ボタンを重要フラグの有無で分けて設置するなど、重要フラグの付け忘れを防止する仕組みを持つこと。	2	1	0	0	0	2	2	2													0	2	2							0	0	2	0	0	0	0.40	0.80	0.80
	3.6.	重要フラグは区分を分けて設定することを可能とし、その段階はマスタで設定できること。	2	2	0	0	2	2	2	2													0	2	2							2	2	2	0	0	0	0.40	0.80	1.20
	3.7.	画像診断レポート作成通知が作成できること。通知の要否はモダリティごとに設定できること。	4	3	2	2	2	2	2	2													0	0	0							2	2	2	2	2	2	1.20	1.20	1.20
	3.8.	重要フラグが付与された場合、画像検査オーダで指定した医師(指定がない場合はオーダ医)に重要所見があることが通知できること。	4	3	2	2	2	2	2	2				0	2	2							0	0	0							2	2	2	2	2	2	1.00	1.33	1.33
	3.9.	レポートの一覧を、レポート記載者、レポート記載診療科、オーダ診療科、モダリティ、検査期間、重要フラグ等で絞り込んで表示することが可能なこと。	2	2	2	2	2	2	2	2				2	2	2							0	0	0							2	2	2	2	2	2	1.33	1.33	1.33
	3.10.	レポートの一覧画面で、レポートの既読、未読、重要フラグの有無が把握できること。	2	2	2	2	2	2	2	2				2	2	2							0	2	2							2	2	2	2	2	2	1.33	1.67	1.67
	3.11.	画像診断レポート作成システムで確認医が画像診断医に向けて入力したコメントを確認できること。	1	1	0	0	0	0	0	0				0	0	0							0	2	2							0	0	2	0	0	0	0.00	0.33	0.33
	3.12.	レポートの一覧画面から、患者カルテが起動できること。	2	2	2	2	2	2	2	2				2	2	2							0	2	2							0	0	2	0	2	2	1.00	1.67	1.67

					A社			B社			C社			D社			E社			F社			G社			H社			I社			J社			K社			平均値		
		システムの機能仕様項目	実装の必要性	期待する時期	通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現	通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現	通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現	通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現	通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現	通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現	通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現	通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現	通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現	通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現	通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現	通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現
	3.13.	画像診断レポートを改版した場合、その情報が画像診断レポート参照システムやレポート通知機能に再送付されること。	4	3	2	2	2	2	2	2				2	2	2							0	2	2							2	2	2	2	2	2	1.33	1.67	1.67
4.	病理診断レポート作成システム																																						
	4.1.	病理検査オーダで入力されたオーダ医等の連絡先（PHS番号、内線番号等）が表示されること。	2	2	2	2	2							0	0	0							0	0	0													0.67	0.67	0.67
	4.2.	病理診断レポートは、所見フィールド、診断フィールドが分離した構造とし、レポート作成画面とレポート表示画面で表示順を変更することができること。	3	2	0	0	0							0	0	0							0	0	0													0.00	0.00	0.00
	4.3.	重要所見があった場合、文字色、文字サイズを変更してレポートを作成できること。	2	1	2	2	2							0	0	0							0	2	2													0.67	1.33	1.33
	4.4.	病理診断専門医が重要所見に対し、簡単な操作でフラグを立てることができること。	4	3	2	2	2							0	0	0							0	0	0													0.67	0.67	0.67
	4.5.	レポート確定ボタンを重要フラグの有無で分けて設置するなど、重要フラグの付け忘れを防止する仕組みを持つこと。	2	1	0	0	0							0	0	0							0	2	2													0.00	0.67	0.67
	4.6.	重要フラグは区分を分けて設定することを可能とし、その段階はマスタで設定できること。	2	2	0	0	0							0	0	0							0	2	2													0.00	0.67	0.67
	4.7.	病理レポート作成通知ができること。			2	2	2																0	0	0													1.00	1.00	1.00
	4.8.	重要フラグが付与された場合、病理検査オーダで指定した医師（指定がない場合はオーダ医）に重要所見があることが通知できること。	4	3	2	2	2							0	2	2							0	0	0							2	2	2				0.50	1.00	1.00
	4.9.	レポートの一覧を、レポート記載者、レポート記載診療科、オーダ診療科、検査種、検査期間、重要フラグ等で絞り込んで表示することが可能なこと。	2	2	2	2	2							2	2	2							0	0	0							2	2	2				1.00	1.00	1.00
	4.10.	レポートの一覧画面で、レポートの既読、未読、重要フラグが把握できること。	2	2	2	2	2							2	2	2							0	2	2							2	2	2				1.00	1.50	1.50
	4.11.	レポートの一覧画面から、患者カルテが起動できること。	2	2	2	2	2							2	2	2							0	2	2							0	0	2				1.00	1.50	1.50
	4.12.	病理診断レポートを改版した場合、その情報が病理診断レポート参照システムやレポート通知機能に再送付されること。	4	3	2	2	2							2	2	2							0	2	2							2	2	2				1.00	1.50	1.50
5.	経過記録ビューア																																						
	5.1.	画像検査が行われた場合、医師が経過記録画面など日常診療で最もよく見る画面で検査の存在を把握でき、簡単な操作で該当画像を選択した形で画像ビューアを起動できること。	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	0	0	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2				1.00	1.20	1.20
	5.2.	画像の検査進捗が表示できること（「依頼中」、「撮影済」、「閲覧済」など）。	2	1	2	2	2	0	0	0	0	0	0	2	2	2	2	2	2	0	0	0	0	2	2	0	0	2	0	0	0	2	2	2				0.60	0.80	0.80
	5.3.	画像診断レポートや病理診断レポートが作成された場合、医師が経過記録など日常診療でよく見る画面でその存在を把握でき、簡単な操作で該当レポートを起動することができること。	3	2	2	2	2	2	2	2	0	0	0	0	2	2	0	2	2	0	0	0	0	2	2	2	2	2	0	2	2	2	2	2				0.40	1.00	1.00
	5.4.	レポートの進捗が表示できること（「作成済」、「閲覧済」など）。	3	2	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0				0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	2	2	2				0.22	0.22	0.22
	5.5.	重要フラグが付与されたレポートは経過記録上で把握ができること。	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	2	2	2	2	2	2	2				0.00	0.40	0.40
6.	画像診断レポート参照システム																																						
	6.1.	画像診断レポート一覧画面（患者ごとの一覧画面）																																					
	6.1.1.	画像診断レポートビューアは、画像診断レポートが未作成の画像検査も一覧を提示し、レポートが無いことをユーザが把握できるようにデザインすること。	4	3	2	2	2	2	2	2				2	2	2	0	0	2													2	2	2	0	2	2	1.00	1.33	1.67
	6.1.2.	レポートが未作成でもレポートビューアに表示する画像検査は、マスタで設定することができること。	4	3	2	2	2	2	2	2				2	2	2	0	0	2													2	2	2	0	2	2	1.00	1.33	1.67
	6.1.3.	画像レポート一覧画面から、画像ビューアを起動できること。	2	1	2	2	2	2	2	2				0	2	2	2	2	2													2	2	2	0	2	2	1.00	1.67	1.67
	6.1.4.	画像診断レポート一覧画面で、未読の画像診断レポートの存在を把握できること。	4	3	2	2	2	2	2	2				0	2	2	2	2	2													2	2	2	0	2	2	1.00	1.67	1.67

					A社			B社			C社			D社			E社			F社			G社			H社			I社			J社			K社			平均値		
		システムの機能仕様項目	実装の必要性	期待する時期	通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現	通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現	通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現	通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現	通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現	通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現	通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現	通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現	通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現	通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現	通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現	通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現
	6.1.5.	画像診断専門医が重要所見のフラグを立てた場合、画像診断レポート一覧画面で重要フラグが目立つように表示されること。	3	2	2	2	2	2	2	2				0	2	2	2	2	2													2	2	2	0	0	2	1.00	1.33	1.67
	6.2.	画像診断レポート画面 (個別のレポートを表示する画面)																																					
	6.2.1.	画像診断専門医が重要所見のフラグを立てた場合、画像診断レポート画面上で重要フラグがわかりやすく提示されること。	4	3	2	2	2	2	2	2							0	0	2													2	2	2	2	2	2	1.20	1.20	1.60
	6.2.2.	画像診断レポートの所見フィールドと診断フィールドの表示順を設定できること。	3	2	2	2	2	0	0	0																						2	2	2	2	2	2	1.00	1.00	1.00
	6.2.3.	画像診断レポートの診断フィールドは、レポートの初期表示で、診断フィールドの内容が確認できること。(画面をスクロールしたりタブを切り替えたりすることなく表示できること。)	3	2	2	2	2	0	0	0																						0	0	2	2	2	2	1.00	1.00	1.00
	6.2.4.	画像診断レポート作成システムで設定した文字色、文字サイズを反映して表示できること。	2	1				0	0	0							2	2	2													2	2	2	2	2	2	1.00	1.00	1.00
	6.2.5.	重要フラグの付与されたレポートでは、所見確認医が画像診断医に向けたコメントを記載することができること。	1	1	0	0	0	0	0	0							0	0	0													0	2	2	0	0	0	0.00	0.00	0.00
	6.2.6.	所見確認医が画像診断医に向けたコメントは、画像診断レポートビューアで確認できること。	1	1	0	0	0	0	0	0							0	0	0													0	2	2	0	0	0	0.00	0.00	0.00
	6.2.7.	画像診断レポート画面に患者説明内容を記載することが可能なこと。記載した患者説明内容は経過記録に記録(表示)されること。	3	1	0	0	0	0	0	0							0	0	2													2	2	2	0	2	2	0.00	0.40	0.80
	6.2.8.	画像診断レポートの診断フィールドのみ印刷対象とするなど、患者向けのレイアウトで診断レポートを印刷する機能を持つこと。	2	2	0	0	0	2	2	2																						2	2	2	0	2	2	0.50	1.00	1.00
	6.3.	既読・未読管理																																					
	6.3.1.	画像診断レポートのアクセスログをユーザごとに持つこと。	2	2	2	2	2	2	2	2							2	2	2				0	0	0				2	2	2	2	2	2	2	2	2	1.14	1.14	1.14
	6.3.2.	画像診断レポート画面を閉じる際、レポートを既読として閉じるか、未読のまま閉じるかを選択することができること。	4	3	0	0	2	2	2	2							2	2	2				0	0	0				2	2	2	0	0	2	0	2	2	0.57	0.86	1.14
	6.3.3.	既読ボタンは、レポート全体を確認しないと押せないこと(レポート画面を一番下までスクロールする、タブを切り替え全画面を表示するなど)。	2	2	0	0	0	0	0	0							0	0	0				0	0	0				0	0	0	0	2	2	0	0	2	0.00	0.00	0.29
	6.3.4.	画像診断レポートを既読とできる権限を設定できること(全診療科／通知先診療科／通知先医師、医師／研修医を含まない医師)。	3	3	2	2	2	2	2	2							2	2	2				0	0	0				0	0	0	2	2	2	2	2	2	1.14	1.14	1.14
	6.3.5.	未読の(既読宣言の行われていない)画像診断レポートは画像診断レポート一覧画面に初期表示され、把握することができること。	3	3	2	2	2	2	2	2				2	2	2	2	2	2				0	0	0				0	0	2	2	2	2	0	2	2	1.00	1.25	1.25
	6.3.6.	既読のステータスは後に未読ステータスに変更することができること。	3	3	2	2	2	2	2	2							2	2	2				0	0	0				0	0	2	2	2	2	2	2	2	1.14	1.14	1.14
	6.3.7.	作成から指定の期間時点で未読のレポートの一覧を表示する機能を持つこと。この時、読むべき医師毎、診療科毎、また、重要所見フラグのあるものに限定するなどの選択ができること。	3	2	2	2	2	2	2	2				2	2	2	0	0	2				0	0	0				0	0	2	2	2	2	0	0	2	0.75	0.75	1.25
	6.3.8.	アクセスログを用い、誰もアクセスしていないレポート、依頼科の医師が誰もアクセスしていないレポートが抽出できる機能を有すること。	2	2	0	0	0	2	2	2							0	0	0				0	0	0				0	0	0	0	0	2	0	0	2	0.29	0.29	0.57
	6.3.9.	画像診断レポートの改版が行われた場合は、改版レポートを未読ステータスで登録すること。	4	3	2	2	2	2	2	2							2	2	2				0	0	0				0	0	2	2	2	2	2	2	2	1.14	1.14	1.14
7.	画像ビューア																																						
	7.1.	画像一覧画面 (患者ごとの一覧画面)																																					
	7.1.1.	画像一覧画面で、画像診断レポートの存在が把握できること。	3	2	0	2	2	2	2	2																						2	2	2	2	2	2	1.00	1.50	1.50
	7.1.2.	画像一覧画面で、未読の画像診断レポートが把握できること。	3	1	0	0	0	2	2	2																						2	2	2	0	0	2	0.50	0.50	1.00
	7.1.3.	画像一覧画面から、画像診断レポートを起動できること。	3	2	0	2	2	2	2	2																						2	2	2	2	2	2	1.00	1.50	1.50

		システムの機能仕様項目	実装の必要性	期待する時期	A社			B社			C社			D社			E社			F社			G社			H社			I社			J社			K社			平均値		
					通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現	通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現	通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現	通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現	通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現	通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現	通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現	通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現	通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現	通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現	通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現	通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現
	7.1.4.	画像診断専門医が重要所見のフラグを立てた場合、画像一覧画面で重要フラグが把握できること。	3	2	0	0	0	2	2	2																						2	2	2	0	0	2	0.50	0.50	1.00
	7.2.	既読・未読管理																																						
	7.2.1.	画像のアクセスログをユーザごとに持つこと。	2	1	0	0	0	2	2	2													0	0	0							2	2	2	2	2	2	0.80	0.80	0.80
	7.2.2.	アクセスログを用い、誰もアクセスしていない画像、依頼科の医師が誰もアクセスしていない画像が抽出できる機能を有すること。	2	1	0	0	0	0	0	0													0	0	0							0	0	2	0	0	2	0.00	0.00	0.40
8.	病理診断レポートビューア																																							
	8.1.	病理診断レポート一覧画面 （患者ごとの一覧画面）																																						
	8.1.1.	病理診断レポート一覧画面で、未読の病理診断レポートの存在を把握できること。	4	3	2	2	2																									2	2	2				1.00	1.00	1.00
	8.1.2.	病理診断専門医が重要所見のフラグを立てた場合、レポート一覧画面で重要フラグが分かりやすく表示できること。	4	3	2	2	2							2	2	2																2	2	2				1.33	1.33	1.33
	8.2.	病理診断レポート画面 （個別のレポートを表示する画面）																																						
	8.2.1.	病理診断専門医が重要所見のフラグを立てた場合、病理診断レポート画面で重要フラグが分かりやすく表示されること。	4	3	2	2	2																									2	2	2				1.00	1.00	1.00
	8.2.2.	病理診断レポートの所見フィールドと診断フィールドの表示順を設定できること。	3	2	0	0	0																															0.00	0.00	0.00
	8.2.3.	病理診断レポートの診断フィールドは、レポートの初期表示で、診断フィールドの内容が確認できること。（画面をスクロールしたりタブを切り替えたりすることなく表示できること。）	3	2	2	2	2																															2.00	2.00	2.00
	8.2.4.	病理診断レポート作成システムで設定した文字色、文字サイズを反映して表示できること。	2	1	2	2	2																															2.00	2.00	2.00
	8.2.5.	病理診断レポート画面に患者説明内容を記載することが可能なこと。記載した患者説明内容は経過記録に記録（表示）されること。	3	1	0	0	0																									2	2	2				0.00	0.00	0.00
	8.3.	既読・未読管理																																						
	8.3.1.	病理診断レポートのアクセスログをユーザごとに持つこと。	2	2	0	0	0													0	0	0										2	2	2				0.00	0.00	0.00
	8.3.2.	病理診断レポート画面を閉じる際、レポートを既読として閉じるか、未読のまま閉じるかを選択することができること。	4	3	0	0	0													0	0	0										0	0	2				0.00	0.00	0.00
	8.3.3.	既読ボタンは、レポート全体を確認しないと押せないこと（レポート画面を一番下までスクロールする、タブを切り替え全画面を表示するなど）。	2	2	0	0	0													0	0	0										0	2	2				0.00	0.00	0.00
	8.3.4.	病理診断レポートを既読とできる権限を設定できること（全診療科／通知先診療科／通知先医師、医師／研修医を含まない医師）。	3	3	0	0	2													0	0	0										2	2	2				0.00	0.00	0.67
	8.3.5.	すべての未読の病理診断レポートは病理診断レポート一覧画面に初期表示され、把握することができること。	3	3	0	2	2							2	2	2				0	0	0										2	2	2				0.50	1.00	1.00
	8.3.6.	既読ステータスは後に未読ステータスに変更することができること。	4	3	2	2	2													0	0	0										2	2	2				0.67	0.67	0.67
	8.3.7.	作成から指定の期間時点で未読のレポートの一覧を表示する機能を持つこと。この時、読むべき医師毎、診療科毎、また、重要所見フラグのあるものに限定するなどの選択ができること。	3	2	2	2	2							2	2	2				2	2	2										2	2	2				1.50	1.50	1.50
	8.3.8.	アクセスログを用い、誰もアクセスしていないレポート、依頼科の医師が誰もアクセスしていないレポートが抽出できる機能を有すること。	2	2	0	0	0													0	0	0										0	0	2				0.00	0.00	0.00
	8.3.9.	病理診断レポートの改版が行われた場合は、改版レポートを未読ステータスで登録すること。	4	3	2	2	2													0	0	0										2	2	2				0.67	0.67	0.67
9.	レポートの存在を知らせる通知機能																																							
	9.1.	機能全般																																						
	9.1.1.	レポート作成通知、重要所見通知を行う機能があること。	4	3	2	2	2	2	2	2	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	0	0	0	1	1	2	0	0	2	2	2	2				1.00	1.20	1.20

				A社			B社			C社			D社			E社			F社			G社			H社			I社			J社			K社			平均値		
	システムの機能仕様項目	実装の必要性	期待する時期	通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現	通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現	通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現	通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現	通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現	通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現	通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現	通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現	通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現	通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現	通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現	通知時に実現	現時点で実現	近い将来実現
9.1.2.	レポート作成通知、重要所見通知の通知先はレポートごとに、ユーザ単位で設定できること。	4	3	2	2	2	2	2	2	0	2	2	2	2	2	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	2	2				0.80	1.00	1.00
9.1.3.	通知先は画像検査オーダ／病理検査オーダで指定された医師とすること。	3	2	2	2	2	0	0	0	0	2	2	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	2	2	2	2				0.20	0.60	0.60
9.1.4.	研修医がオーダ入力を行った場合は、指導医にもレポート作成通知や、重要所見通知が行われること。	3	3	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	2	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	2	2	2				0.20	0.40	0.60
9.1.5.	通知された医師は、通知画面からレポートの通知先を変更すること(通知の転送)ができること。通知先が変更された通知は新しく指定された医師に通知先を付けかえること。	3	2	0	2	2	2	2	2	0	0	0	2	2	2	0	0	2	2	2	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	2	2				0.60	0.80	1.00
9.1.6.	通知から該当の「画像診断レポート画面」または「病理診断レポート画面」を起動する機能を持つこと。	3	2	2	2	2	2	2	2	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	0	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2				1.00	1.20	1.20
9.1.7.	レポート画面で既読を選択した場合、通知を既読とし、消去すること。	3	2	2	2	2	2	2	2	0	2	2	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	2	2	2	2				0.60	0.80	0.80
9.1.8.	消去した通知を、表示する機能を有すること。	3	2	0	2	2	2	2	2	0	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	0	0	0	0	0	2	0	0	2	2	2	2				0.80	1.00	1.00
9.1.9.	通知の消去操作の取り消しが行えること。	3	2	2	2	2	0	0	0	0	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	0	0	0	0	0	2	0	0	2	2	2	2				0.80	0.80	0.80
9.1.10.	操作者が再通知日を指定することで、患者来院等に合わせ、通知の再通知ができること。	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	2				0.20	0.20	0.20
9.1.11.	再通知は、ユーザ操作で消去できること。	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	2				0.20	0.20	0.20
9.2.	医師ごとに通知を確認する機能																																						
9.2.1.	電子カルテにログインした時、通知先医師に通知を気づかせる仕組みがあること。	4	3	2	2	2	2	2	2	0	2	2	2	2	2	2	2	2	0	0	0	0	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2				0.80	1.00	1.00
9.2.2.	重要フラグが付与された通知は、あらかじめ設定された区分によって、通知を区別し、目立つ形で提示すること。	3	2	0	2	2	0	0	2	0	2	2	2	2	2	2	2	2	0	0	0	0	2	2	0	0	2	0	0	0	2	2	2				0.40	1.00	1.20
9.2.3.	重要フラグは通知一覧でわかりやすく表示すること。	3	3	0	2	2	2	2	2	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	0	2	2	0	0	2	0	0	2	2	2	2				0.80	1.40	1.40
9.2.4.	ログイン医師の所属する診療科の医師に対して出された通知を表示する機能を有すること。	2	1	2	2	2	2	2	2	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	0	2	2	0	0	2	0	0	0	0	2	2				1.00	1.40	1.40
9.3.	患者ごとに通知を確認する機能																																						
9.3.1.	患者カルテを起動した時に、通知に気づかせる仕組みがあること。通知表示の対象は、診療科(全診療科／通知先医師の所属する診療科)や職種(医師／研修医／看護師等)を医療機関ごとに設定することができること。	4	3	2	2	2	0	0	0	2	2	2	2	2	2	0	2	2	0	0	0	0	2	2				2	2	2	0	2	2				0.67	1.11	1.11
9.3.2.	重要フラグは通知一覧でわかりやすく表示すること。	3	3	2	2	2	2	2	2	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	0	2	2				0	0	2	0	2	2				1.11	1.56	1.56
10. 監査機能																																							
10.1.	画像診断レポート・病理診断レポートの未読・既読ステータス、アクセスログを一覧で把握し、外部出力できる機能を有すること。	4	3	1	1	1	2	2	2	0	0	0	2	2	2	2	2	2	0	0	0	0	2	2				2	2	2	2	2	2	2	2	2	0.90	1.10	1.10
10.2.	一覧は、診療科、医師、検査期間、検査種、重要フラグ等で絞り込みを行うことができること。	4	3	2	2	2	2	2	2	0	0	0	2	2	2	2	2	2	0	0	0	0	2	2				2	2	2	2	2	2	2	2	2	1.00	1.20	1.20
10.3.	一覧画面から患者カルテを起動することができること。	2	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	0	0	0	0	2	2				2	2	2	0	0	2	0	2	2	1.00	1.40	1.40
	総計			114	130	136	88	88	92	6	26	26	68	92	92	52	56	72	22	22	22	0	48	48	9	9	52	32	34	60	126	144	168	44	64	78	66.5	86.3	93
	実施対象項目数			99	99	99	72	72	72	31	31	31	58	58	58	49	49	49	40	40	40	67	67	67	26	26	26	40	40	40	84	84	84	44	44	44			
	実施項目数			58	66	69	44	44	46	3	13	13	34	46	46	26	28	36	11	11	11	0	24	24	5	5	26	16	17	30	63	72	84	22	32	39	79	87	90
	カバー率(%)			58.6	66.7	69.7	61.1	61.1	63.9	9.7	41.9	41.9	58.6	79.3	79.3	53.1	57.1	73.5	27.5	27.5	27.5	0.0	35.8	35.8	19.2	19.2	100	40.0	42.5	75.0	75.0	85.7	100	50.0	72.7	88.6			

実装の必要 4:非常に高い 3:高い 2:普通 1:低い　　各セルの値 2:実施 1:部分的に実施 0:未実施 空欄:対象でない

期待する時期 3:できるだけ早く実現が望まれる 2:早期実現が望まれる 1:実現が望まれる